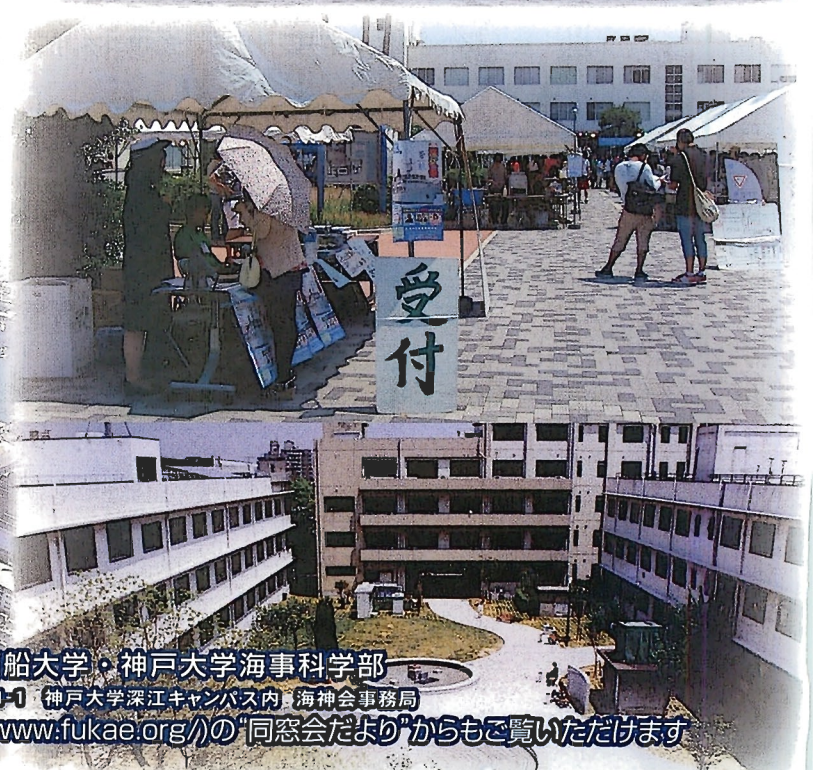


海神会 だより



神戸高等商船学校・神戸商船大学・神戸大学海事科学部

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

同窓会誌「海神会だより」は海神会ホームページ(<http://www.fukae.org/>)の「同窓会だより」からもご覧いただけます



海事科学研究科長の挨拶

平成26年度から27年度にかけての 海事科学部・研究科の活動報告と活動予定

海事科学部長 林 祐司

神戸大学の厳しい大学運営の下、海事科学研究科の平成26年度の主たる活動報告と平成27年度の主たる活動予定をご報告いたします。

1. 平成26年度の主たる活動報告

(1) 附属練習船深江丸教育関係共同利用拠点の認定

平成26年7月31日に附属練習船深江丸教育関係共同利用拠点の認定を受けました。そのために深江丸年間運航日数は昨年度の95日から141日に急増しましたが、当該認定は深江丸の代替新造船の可能性を生み出しています。今年度から4年または6年後に代替新造船の必要な予算を獲得するために、深江丸を利用した教育・研究の実績を積み上げていく努力が不可欠です。

(2) 海底探査高度専門職業人の養成

学部で海事科学を学んだ海事科学部学生と地球科学を学んだ理学部学生を対象とした海底探査高度職業人養成コースを大学院博士課程前期課程で実施するという平成28年度概算要求を「海洋立国を牽引する高度専門職業人の育成」として提出すると同時に、平成26年9月に理学部学生乗船の深江丸による南海プレート北端の地磁気測定を実施しました。

2. 平成27年度の主たる活動予定

(1) 係船池（ポンド）の浚渫事業及び係留ドルフィンの新設

平成27年1月から6月にかけて、ポンドの浚渫及び係留ドルフィンの新設が実施されます。計画水深4.5mで深江丸係留岸壁付近を浚渫するとともに、岸壁南端から南へ延びる係留ドルフィン1基の新設工事が実施されます。

(2) 大学院改組

前述の海底探査高度職業人養成プロジェクトを基盤として、海洋学と海洋工学分野の研究を推進して神戸大学の次世代フラグシップ研究を目指す計画を検討しています。また、当該プロジェクトを大学院改組の目玉とすべく大学院改組WGにおいて検討中です。

(3) 創基100周年事業計画

第1回学内WGを12月17日に開催し、その際に趣意書等のたたき台が示され、その概略について説明を行いました。その際に平成27年4月目途に周年事業を開始する予定で準備することが確認されました。今後の皆様方のご理解とご協力を切に願っております。



海神会会長の挨拶

海神会会長 久保 雅義

海神会会長を引き受けて早1年半が過ぎた。この間に見えてきた課題を列挙してみたい。

論点その1

会長に就任し1年半、関係各位からの助言、他学部同窓会の活動実績、内容、充実した会誌等を参考にして、我が同窓会は、まだまだ行すべきことが多々有るが一度に対応出来ない。具体的な実施計画の立案、実行を長期・中期・短期に分け以下に示す。

長期目標

○法人化について：法人化を行っている同窓会が10同窓会のうち2学部あり、法人化の必要性の有無、メリット、デメリットを明確化する。法人化に必要な運営基盤の構築を目指す。

○学友会への対応：学友会の目指す理念、運営、相互補完関係の維持発展に協力する。

中期目標

○海神会の啓蒙活動：商船大学同窓生、海事科学部同窓生、現役学生等への海神会の目的、事業、役割等、よりきめ細かい解りやすい啓蒙活動を実施する。会員からの意見の抽出も行う。

短期目標

○2017年は川崎商船学校創設から100周年の節目の年である。今年から支援準備開始である。

○名簿管理システムの一元化は完了した。個別データの修正、改正、整理を継続実施する。

○海神会だよりをより魅力的にするため、より興味ある記事を増やす。8ページから12頁以上へ増頁予定である。

○かもめ会、海事博物館のボランティア活動などのPR、支援の充実を計る。

○同窓会運営基盤をより強固にするため寄付・募金活動をこれまでより明確にして実施する。

論点その2

海事科学研究科として社会貢献(CSR)につながる教育と研究を行う活動支援を実現する。

○社会の困っている課題の抽出。勿論、長期、中期、短期としての研究課題の設定が必要である。

○我々の同窓生は、主に海を舞台にした多くの現場で活躍して来たが、現在は、海・陸・空のあらゆる世界、国で活躍している。研究課題は、海だけに限らず陸上のあらゆる所でも存在し、その問題点の根底には必ず共通点がある。分析、体系化し、研究成果に結びつける。

○福島第一原発事故対策にも海事科学部同窓生ならではのユニークな提案が出されている。

○福島第一原発事故の問題について、8E小石原氏の指摘（詳しくは、海神会ホームページの掲載記事：「史上最悪の原発事故から何を学んだか」を参照下さい。）は、海外でのプラント建設、技術経験豊富な貴重な現場の生の意見であり放置するのは惜しい。久保は、従来からの研究テーマで数年振りに科学研究費の申請を行った。経緯は、別の機会に譲るとして、名誉教授の役割として出来ることは、貴重な意見を基にして、教員と実務経験者を含む産学官連携チームを作って、先ず、科研申請に持ち込みたいと考えている。世界で唯一の被爆国、原発での大事故も起こした日本、大震災も経験した数少ない国立の総合大学である神戸大学の研究組織とも連携した研究課題の汲み取り、解決策の体系化、具体化、実用化を目指し、後継者の育成にも取り組み安全、安心、防災、減災の世界、国、地域をつくる大切な使命がある。今年は、これらを実行、行動に移す年であると決意を新たにしている。

皆様の新たなご協力、ご支援も何卒よろしくお願い致します。



『海運及び陸運経営者への道』

今回の掲載は、我々 13期生は、丁度古希を迎えた、或いは今年70歳を迎える年代です。ユニークな経験をし、まだまだ現役で活躍中の同級生もいます。その中でも特に、彼の場合は、海外で会社を興し、経営者として40年近くを経た今も元気に最高責任者として事業の運営、発展、後継者への引き継ぎ、家族との生活など公私に渉り充実した日々を送っています。その彼の経歴、考え方などを、下記の経緯により纏めさせて頂きました。同窓会員の皆様、特に、現役社会人や先生、研究生、学生の方々へ、今後の人生航路の一つの参考に、或いはこんな人も居たのだと頭の、心のどこかに留めて置いていただければ幸いです。

あるメールのやりとりの一部ですが、「久保会長より、刈屋さんの経営者としての歩みについての海神会だよりへの寄稿を改めてお願いするためこのメールを書いています。刈屋さんには『海運及び陸運経営者への道』を執筆していただきたく考えています。昔々の卒業研究発表で海運経営者を目指すべきだという発言は、今でもよく覚えており、素晴らしいと思いました。このあたりから解きほぐされると、学生の皆さんや若い海神会会員へ大きな刺激になると思います。」御返事をお待ちしています。」それから、暫くたって、昨年秋締め切り前に寄稿を再確認の際、進行状況を聞いたところ、彼の経営する会社が、3年後には40周年の節目でその時には、自分なりに創業からの話をまとめる最後の時期でもあり、それまでに、まだまだやるべき事もある。今回は、すまぬが見送ってほしいとの電話が入ってきました。同期生である私の3年先はどうなっているか、分からないから、このままでは、折角の機会も失うことになる。それに、彼とは商船大入学1年時の同室での寮生活からの出会い、クラブ活動も水泳部で一緒など、東京弁のユニークな性格で当時は硬派であった彼とは卒業後も合同の記念クラス会などたまに会ったり、噂で聞いたりして活躍や頑張っている姿は知っていました。同窓会員の皆様、特に、現役社会人や学生、研究生の方々へ、こんな先輩も海神会に居たのだと受け止めていただければ刈屋さんの本意も少しは皆様に伝わるのではないかと思います、海神会だよりに寄稿、編集させて頂きました。ご一読下されば幸いです。

1) 刈屋さんの簡単な自己紹介：以下（ ）内の言葉は、主にインタビューの言葉です。

- ①生年月日：1945年3月7日（来年3月で70才、同学年で有名な人と言えばサッカーの釜本邦茂さん、女優の吉永小百合さん、栗原小巻さんと同学年です。）
- ②幼少の頃、将来の夢：人と違った生き方をして、金持ちになる事。（当時の商船大生は、この考えの学生が多かったですね。理系の国立で卒業後、最も確実に金持ちになれる職業が船長、パイロットでしたね。）
- ③船乗りになるのを決めたのはいつですか？：15歳（高校一年生）の時でした。（出来るだけ親の負担なしで、自分に合った好きな人生を歩みたい。船乗りは、親や家族に心配かけて反対する人もまだまだ多い時代でしたが、両親もすでに刈屋さんを一人前の男として認め、子育てになってくれた方だったのでしょうか。）
- ④卒業高校：東京都立鷺宮高校卒業（東京商船大でなく、神戸商船大にしたのはわざわざ東京から来る変わり者（自分のような）は恐らくない関西での学生生活をしたかった。また異郷の地での生活は、地元をよく知れて楽しいからとか……。一年生の夏休み、それぞれの九州や北海道、東京への帰郷前に5人の同期生が、京都へヒッチハイクもどきのキャンプ旅行、嵐山、嵯峨野、金閣他見物後、京都紫野にあった我が家にやってきて、お袋の手作り昼飯で、一升の飯を5人でペロリ、山仲



N13期 刈屋 澄世

間で何回も我が家には若者が来たことがあったが、こんなに気持ちよく、美味しそうに、楽しく見事に平らげてくれた人達を見たのは初めてだとか、近所のおばちゃん仲間達に商船大学生達の自慢話を嬉しそうにしていました。特に、刈屋さんには入学時に寮で会っていたので余計に印象深かったようです。）

- ⑤趣味：ゴルフ、囲碁、nice girl（素敵な女性への恋心がいつでも若さを保つ秘訣とか、元気の源だとか、ある有名映画監督も言っていました。また、彼の机には平凡パンチのグラビアの強烈で綺麗なマリリン・モンローのヌードカラー写真があり、今でも鮮明に覚えています。我々が入学した年の10月に東京オリンピックが開催されました。閑な時、彼は映画も好きで甲南市場の名画劇場によく通っていました。名画からも人生経験を得ていたのかな？私にはもっぱら深江会館の映画の三本立ての映画の方でした。囲碁の腕前：アマチュア3段、50歳から本気で習ったそうです。また、ゴルフは、HD16とか、白鷗杯で会いましょう。上位を期待しています。）
- ⑥座右の銘：今からでも遅くない。（Even though it's not too late）（あきらめるのはまだ早い。当然、70歳になってからでもすね。）

2. 仕事関係の話：

- ①就職先（会社名）：小山海運 1968年（昭和43年）10月（大手を選ばなかったのは次の理由です。）
- ②就職先の選択理由：先輩のいない、定期航路をメインとする船会社。（このあたりが彼のユニークさ？大学の選択と共通点がありますね。今の彼があるのも頷けます。）

3. 転職

- ①理由：1975年会社倒産
- ②転職の動機：会社倒産した為（私も同じ頃倒産に合い、人生の岐路でした。）

4. 事業を始めるきっかけ

- ①いつ頃から考えましたか？：倒産した時（2年先の40周年を考えると短期間で事業を始められた切り替えの良さは、見事です。倒産した時の悔しさ、周りの従業員や家族の生活を根底から壊した経営者、もし、自分が経営者になったら会社は必ず従業員とその家族を先ず守り、どんなことがあっても会社は利益を上げ、社会にも還元する使命があることの企業理念をこの体験で、しっかり持たれたのでしょうか。）

- 5. 従業員は何人から始めましたか？：5人（自分以外はフィリピン人）（船頭は一人で充分ですね。）

- 6. 資本金：どの程度から会社を興されましたか？：600万円。（当時、同年代の一般サラリーマンの年収は250万円程度？今の価値で言えば2,000万円？）現在の資本金は約6,000万円。

7. 事業資金について：

- ①どのようにされましたか？：貯金、親からの借金。（親からの借金が出来て良かったですね。）
- ②事業開始の融資は受けましたか？全て自己資金ですか？：融資は受けず。（無借金経営とまで行かなくても有利子負債0は、やはり大きな魅力ですね。）

- ③現在の会社の概要：Philippine Transworld Shipping Corp.を中心としたPTSCグループ（刈屋氏はCEO）
従業員数：約100名、内日本人5名（基本的には若い、頭の柔軟な年代の人を育成する方針だそうです。）
業種：フィリピン人船員の派遣、船舶代理店業、船主業（ケミカルタンカー）、フィリピン国内物流、人材派遣（創業当時は、日本の船会社の競争力が弱くなりかけた頃、外国籍に売船、

外国人船員雇用、混乗船の出現、コンテナ船化、専用船化等大きな変革の時代へと変遷して行きました。)

年商：年商 US 4,000 万ドル (約48億円) (月商3億円～4億円の売上げを100人の従業員で、凄いですね。)

私の現役時代、機械メーカー会社の従業員一人あたりの損益分岐点の売上額は3,500～4,000万円程度で大変でした。株主配当、従業員給与、ボーナス、役員賞与、内部留保等利益が得られる。刈屋さんの会社は、約4,800万円/人、当然業種が、メーカーと海運、物流、人材派遣、代理店業務等とは、変動費が異なり簡単には比較出来ませんが、いい数字のようです。)

8. 奨学基金として2006年に海事科学部に寄付。(世話になった母校への小さな恩返し気持ちだそうです。学生諸君には、単に基金の一つとして捉えていただくため、敢えて名前は伏せることで寄付されています。)

9. これだけは必ず行う。(仕事の面) 仕事 時間厳守 (Time is money) (生活の面) 適度な運動 (毎朝泳ぐ、週2回歩いてのゴルフ) (水泳は学生時代から水泳部で活躍し、現在も毎朝の水泳、羨ましいですね。何よりの健康法ですからね。ゴルフは仕事上の付き合いやゴルフ環境の良さもあり、それこそ趣味と実益を兼ねてのいい習慣ですね。)

10. これだけは絶対しない。(法律違反 (商売の基本・鉄則ですからね。国、時代によって変わる商法、法律等、そのための勉強は不可欠ですね。それもこうしたポリシーが根底にあるからこそのですね。)

11. 家族への思いやりや、フィリピンでの事業と家族とのかかわり等での一言。

妻が全面的に支えてくれたので感謝の一言。(やはり内助の功があったのですね。) 残念ながら2008年に逝去。(本当に残念です。まだお若かったのに、それに経営も当時は大変な時期だったと思います。私には想像出来ない辛い、淋しい日々をよく乗り越えて来られたのですね。)

12. 後輩卒業生、在学生へそれぞれへの一言：消炭人生。(燃え尽きること。) なんでもいいから仕事に就いて、とりあえず一生懸命やること。熱中できる趣味をもつこと。良き友人をたくさん持つ努力をすること。(良き友は何よりの財産ですね。良き友をたくさん持つ努力、これが出来るのも気持ちのこもった一生懸命な努力の賜物ですね。)

13. 同窓会への一言：Good Colleague (仕事関係での良き同僚、他の意味は?何事でもいい仲間が必要ですね。)

14. 何か一言：事業の継続の基本は、自分の当たり前を当たり前のように実行していくこと。自分の当たり前が世間に通用しなくなった時が終わる時。当面は40周年にむけて全力投球です。

15. 海神会も会員の方々も益々のご発展を願っています。(刈屋さん、どうも、いろいろとお忙しい時期ありがとうございます。)

(追記：日常の彼のE-mailは、全て英語だそうです。勿論、日本語でも連絡出来ます。可能なら英文でメール下されば転送も簡単です。)

インタビュー後記：

後輩諸氏、学生の皆さん、今回は、紙面の都合や皆さんの興味ある事柄が事前に把握できなかったことなどで、まだまだ他にお伝えすべき事が多々あったと思います。本件に関して、もっと何か聞いてみたいこと、或いは、ご意見などありましたら、お気軽に海神会事務局にメールをください。刈屋氏から他にもいい話が聞けるとおもいます。彼は、基本的に気さくで話好きです。多くの方がたとのつながりも持っています。そして何よりも母校の事をいつも気にかけてもいます。

(健康に気を付け頑張ってください。いい40周年記念を迎えられますよう祈っています。)

インタビュー 海神会 事務局長 E13期 神吉行彦

第32回白鷗杯争奪ゴルフコンペ

第32回白鷗杯争奪ゴルフコンペが、平成26年10月9日(木)、垂水ゴルフ倶楽部(神戸市垂水区、パー70)で開催されました。

当日は、朝から曇り空でしたが、気温26.5℃、湿度61%という絶好のゴルフ日和の中、アウト5組、イン5組の36名が、ダブルペリア方式による18ホールストロークプレーで熱戦を繰り広げました。

今年は一期生の宮地正俊さんが参加予定でしたが、残念ながら体調不良のため直前に不参加となりました。しかし、二期生からは田中淳夫さん、片岡英二さん、越智一夫さんの3名の参加があり元気にプレーされました。また、前学部長の小田啓二先生が初めて参加されました。



プレー終了後、倶楽部ハウスにて表彰式と懇親会が執り行われました。優勝は14E山口幸次郎さんと、アウト40、イン40、グロス80、ハンディキャップ8.2、ネット71.8の成績でした。成績上位者は次のとおりです。

		アウト	イン	GROSS	HDCP	NET
優勝	14E 山口幸次郎	40	40	80	8.2	71.8
準優勝	13N 中家 修	42	42	84	11.7	72.3
3 位	6N 在間 広光	44	46	90	17.5	72.5
4 位	16N 森口 俊樹	44	46	90	17.5	72.5
5 位	17E 井上 春夫	54	43	97	24.5	72.5

ベスグロは12Eの高尾吉宗さんと、アウト40、イン39、グロス79の見事な成績でした。

毎回各方面から支援をいただいておりますので、ここに紹介と御礼を申し上げます。

ロマン会様、坂本善正さん(14E)からは多額の寄付、余田光男さん(5N)からは有馬大黒屋佃煮、三浦敏夫さん(1E)からはMCCカレーセットをそれぞれ格安の価格で提供していただいております。ありがとうございました。

また、赤井勝義さん(12E)、竹入 弘さん(14E)、稲岡秀昭さん(16E)には背広幹事として、朝早くから受付、写真撮影、懇親会の段取り等手伝っていただいております。ありがとうございました。

来年も10月中旬頃に垂水ゴルフ倶楽部で開催する予定です。同窓生の皆様の多数の参加をお待ちしております。

以上



陸に上がった河童の半生を振り返って

人間万事塞翁が馬。偶然の生はありがたい。

N13期 須賀 弘



【はじめに】

神戸商船大学を卒業後すぐに陸に上がってしまったので、同窓生とはあまり親交はなく齢を重ねてしまった。昨年(平成25年)卒業45周年記念で神戸の舞子ビラでの同期会に参加した。懐かしい同期生との再会、そして間もなく同期の友の葬儀への参列、そこであった東京商船大学の同期との再会、二水会への参加と交友が進むなかで、船長協会の増田さんや海洋会専務理事の甲斐さんとの出会いがあった。また、東京で行われた海神会では、同期である海神会会長の久保さんとも再会した。それらの会で話題に上ったのが「最近の卒業生は船に乗らない人が多い、陸に上ってどのように過ごしたか書いてみないか…」という誘いの言葉であった。この機会に、商船大卒という肩書を背負って過ごした「遠回りの人生」を振り返るのも良いのかな…と思った次第である。

執筆をあと押ししたのは、人生の岐路のなかで、自分の思うままの選択により、苦勞をかけた家族や唐突な別れとなった方達に対して、心のどこかで懺悔したい気持ちがあったかも知れない。また、人生の最終コーナーを迎えるにあたって、今後どのように老後を過ごすか、見直す機会にしたいと思ったからでもある。

2014年8月1日

須賀 弘

(追記)表紙の絵は、池田誠氏のご厚意により作成してもらったものである。

1. 遠回り人生のスタート

昨年、仕事で呉港から松山港までスーパージェットで渡った時のことだった。外国船のそばを通過した。その大きさをまざまざと実感した。その時、なぜ自分は船に乗らなかったのだろうか、もっと苦勞しない人生があったかも知れない…と自問自答してみた。思えば、外国にあこがれ、船にあこがれ商船大学に入った。学校生活も寮生活も面白かった。クラブ活動は水泳、テニス、そしてギタークラブと充実していた。乗船実習では、いろんな港に立ち寄り、特にハワイへの遠洋航海は仲間と過ごした楽しい思い出が詰まっている。

遠回り人生のきっかけは、経済に興味を持ってしまったことかも知れない。卒論は東海林先生の「海運経済」を専攻した。経済学の基礎を学ぶために、神戸大学の第二学部の聴講生にもなっ



た。「Shipping is Poor country business」という言葉をいまでも思い出す。そのころ海運業界は、伝統的な三島船(three islander)からコンテナ船、タンカーが雨後の筍のように建造ラッシュ期を迎えていた。日本経済は高度成長期にあり、海外物流が勃興していた。当然のこととして、慢性的な船乗り不足を抱えており、卒業生は支度金付きで船会社に迎えられていた。そのような時代の流れを「海のロマンがなくなる」と短絡的な考えを持ってしまったのも事実であった。第一志望は商社であった。中堅どころは可能であったが、大手は狭き門で乗船実習もあり十分な就職活動はできなかった。結局、安定志向をしてしまい、快く受け入れてくれた大阪に本社がある「同和火災」を選択したのである。これが、遠回り人生の始まりであった。航海科80名の中で最初から陸に上がったのは2名だけであった。



2.30年余りのサラリーマン生活

①関西から始まり

入社当時、金融機関は国家保護の真っただ中にあった。保険会社も例外でなく、経営の厳しさは感じられず社風も穏やかであった。物足りなさを感じ、商船大学に中古ヨットを置いて乗ったり、挙句の果てに入社3年目、2か月の休暇を取って、東南アジア・インドの旅行をした。今で思えば、とんでもない社員であったが、辞めさせられなかった。真に温情みのある会社であった。

旅行前は大阪本社貨物保険の査定業務についていた。帰ってから大阪支店船舶営業に配属されたが短い期間であった。コンピュータ時代を迎えるにあたって、全社的に情報システム部門を充実することになり、そのメンバーに選ばれた。結婚もしていたので、腰を落着けて仕事をせざるをえなかった。コンピュータセンターは西宮にあった。そこでは、船舶保険のデータベースシステム、自動車査定オンラインシステムに関する開発業務などを担当した後に、コンピュータ教育の普及活動に携わった。最後には、関西の生保・損保5社のEDP(コンピュータ部門)部会の幹事役を経験させてもらい共同論文をまとめた。情報システム部門での10年近い経験は、会社を辞めてからの仕事に大いに役立つこととなる。

②札幌での営業

もともと営業は希望であった。海上保険分野ではポストが少なかったが、自動車・火災などノンマリ部門のマーケットが拡大していた。そのような理由と思われるが、北海道札幌での企業営業課に配属された。全く知らない土地で、しかも経験のない分野で一兵卒として船出であった。既に39歳になっていたため、入社同期では営業課長職に就いていた人もいた。

しかし、希望した部門であったので嬉々として仕事に取り組んだ。ノンマリンの営業は、代理店先を回るルート営業である。金融機関・建設会社・不動産会社・会計事務所等の代理店先を開拓したり支援したりする活動である。保険の知識や保険金の支払については、会社に帰って調べ対応すればよいわけであり、代理店先の保険開拓提案、本業支援の情報提供や代理店間のネットワーク化に力を注いだ。札幌は本土からの人を受け入れる解放的な街であり人脈は作りやすかった。営業数字にはあまり苦勞しなかった。札幌時代の9年間は、四季折々の大自然を味わい、旅行を楽しみ、家族とともに仕事と遊びに充実した時期であった。

③抜擢と早期退職

会社創立50周年記念事業として、社内論文の募集があった。札幌での営業活動をテーマにした「地方都市における営業ネットワーク戦略」の小論文を投稿したら、幸運にも入選した。札幌での営業実績と入選がきっかけとなり、営業副部長から東京本社の企業営業部長(金融・海運)に抜擢された。丁度、地下鉄サリン事件が発生した年であった。

いいことがあるとその反動がくるのが人生の条理なのかも知れない。役員とのネゴシエーションを駆使して上手く立ちまわる才覚は持ち合わせていなかった。その上、長い間保護されていた金融業界の垣根が外れられ、自由化の嵐が迫りつつあった。IP事業部の責任者に転出させられた。この部門は、損害保険の直販部隊で首都圏に3カ所の拠点をもち、30名程度の直販社員を抱え

ていた。生保と損保の垣根が外され、生保販売も可能になり成績を上げれば脚光を浴びる部門であった。しかし、競争の激しい首都圏のマーケットで、生保の販売網に対抗して顕著な業績を上げることが、奇跡を期待するようなものであった。やがて、日生との経営統合が決まるや否や廃部になることが決まった。直販社員の整理業務が課せられた。再雇用組、退職組、代理店として独立させるグループ、それぞれ膝を突き合わせて選択を迫った。このような後ろ向きの仕事はだれも関わりたくないであろう、組織の持つ冷たい側面を身に染みて感じた。時を同じくして、早期退職制度が実施されていたので、直販社員の整理が終わったときに、自らその制度を選択した。55同和火災は、ニッセイ同和となり、大東京グループと合併し「あいおいニッセイ同和」となり、更に三井・住友海上グループとの経営統合を通じて、現在はMS&ADホールディングスの傘下となっている。保険業界の自由化の嵐はすさまじかった。一旦垣根が崩れると、損保19社体制が一挙に崩れ、結果的に東京海上グループ、損保ジャパングループの3社に集約されてしまった。同和火災は、全国に支店があり約3千名の社員を抱える大きな組織であったが、グローバル化という大海に投げ出されると、一介の小舟にすぎなかったことが現実のものとなったのである。



3. コンサルタントとしての独立

①チャンス到来

「一歩踏み出せば人生が変わる」この言葉を実感したのは、関連子会社(リスクコンサルティング会社)に一時的に在職した時のことであった。その会社が、ISO(品質マネジメントシステム)の認証取得をすることになった。そこで構築メンバーに加えてもらい、審査員の資格も取得する機会を得た。その年(2000年)、雪印食品の大規模食中毒事件があった。子会社の名前で、食品安全とISOのセミナーを開催したら十数社集まった。そのなかの鶏卵加工会社と集団給食会社がISOの取組みをすることになった。会社の許しを得て、2社のコンサル契約をもって独立した。たった1年間の出来事であった。

独立後もISOの小冊子を作ったり、月刊誌に投稿しているうちに、全農米穀本部とのパイプができた。全国の精米工場約30社のISOの認証取得を支援させてもらうことになった。また、常陽産業研究所などコンサルティング会社との業務提携も進んだ。一人ではできないので、食品工場の経験があるキリンビールOBの石村靖氏、大林組OBの村野和夫氏、そして同和火災OBの岩井忠氏と4名で会社を設立し、本格的にISOコンサルタント事業に取り組むことになった。この時期は、ISO認証取得の勃興期であった。

②ISOマネジメントシステム

ISOとは国際規格のことである。幾つかのISOがあるが、主として品質マネジメントシステム分野を携わった。これは製品やサービスの質を保証する第三者機関による認証制度である。その中身は、顧客の満足を目指したPDCA(計画・実行・確認・見直し)という管理システムを構築することである。いわゆるISOの要求事項(決まり)にそって企業に適した手順や記録を作るわけである。ワード・エクセルなどコンピュータの技術的な知識だけでなく、システム工学的なセンスが必要となる。保険に関する業務と全く関係ない仕事であったが、企業の実態にあったマネジメントシステムの支援は、コンピュータシステムの設計と似ており、同和火災の情報システム時代に培った経験を生かすことができた。

全農のISOの認証取得支援が一巡したあと、ISO審査機関に食分分野で審査員として登録し活動することになった。コンサルはシステムを造り運用支援する側、審査はそれを検証する側であり表裏の関係にある。コンサルは自由な発想で構築できるが、審査は主観的な発言は押さえないといけない。

審査員としての面白さは、受審先で経営者の考え方を聞いて、各部門担当に聞き取りをしながら、短時間の間に問題点を指摘しなければならない。この間に、会話力(とくに聞き取り)、問題点の発掘能力、そして文書を纏める能力、スケジュール管理など総合能力が必要となる。よい指摘をして顧客に喜ばれたときは、少なからず達成感があった。

③絆の崩壊と復活

東日本大震災の翌年2012年7月29日、息子が急死した。とて

も暑い頃であった。お嫁さんが2番目の子供を出産するために実家に帰っていた。携帯電話がつかないという連絡があり、家内がアパートを訪ねてみると、ベットの床上で眠るように倒れていた。虚血性心疾患36歳であった。

調理専門学校を卒業した後、薬膳を修業するため富山の割烹料理店に入ったが、結局地元の海鮮居酒屋に務めることになった。その後15年、調理長まで任され魚捌きは一流になっていた。結婚して東京に帰ってくるというので、お店を持たせるために所沢に居ぬき物件を購入した。30席余りの掘り炬燵のある手ごろな物件であった。お店の売りは新鮮な魚を都会の人に食べてもらうことであった。割烹居酒屋で「ゆわん」(結ぶ湾)という名前を付けた。「産地とお客を結ぶ、人と人の和を結ぶ、家族の和を結ぶ」という三つの絆を看板とした色紙に書き、店内に掲げた。今まで転勤でバラバラになっていた家族の絆を深めたいという気持ちが根底にあった。

富山から産直のために仕入のコストがかかった。調理場は一人で、アルバイトを使って頑張っていた。開業1年目を過ぎたころから、徐々に固定客も増えはじめ月間の黒字化が見え始めた矢先であった。知らない土地での厳しい経営、一人で無理をさせてしまった。愛妻と1歳4か月の長男、そしてお腹に次男を残しての旅立ちであった。息子を中心とした三つの絆は淡くも崩れさったのである。

しかし、その絆が復活したことを触れておかなければいけない。それは、常連客のなかで息子の縁で親しくなった奈良田、山本家2組の若夫婦である。悲しみを共に慰めてくれるだけでなく、時にふれ食事や遊びに誘ってくれる。飛騨古川にいますお嫁さんと二人の孫、そして長女と次男の他に、新たに4人の子供と孫ができたようである。

今年7月、三回忌の法要で再び飛騨古川を訪れた。この街は、日本の原風景が残っている。古い建ち住まいが多く、用水路には鯉が泳ぎ、せせらぎの流れがあちこちで聞かれる静かなところである。しばしの間孫達と会って、帰りに骨壺を持ち帰った。腕の中でずしりと重たかった。



4. 老いの自立

①ISOの新しい時代

品質マネジメントシステムが誕生したのは1987年、27年前のことである。現在では世界で100万社は超えており、日本でも5万社程度は存在している。

ISOは品質だけでなく、環境・食品安全・情報セキュリティ・交通安全・エネルギーと取り組むテーマごとに誕生している。また、ISOは7年ごとに改定されるルールになっている。ISOの細分化が進む中で、この度どのISOでも通用できる共通の規格が策定された。この内容を見ると、経営環境を踏まえた戦略を策定することが要求されており、ビジネスモデルへ進化しているように思える。

品質マネジメントシステムの審査経験を通じて感じることは、ISOを上手く使いこなしていない企業が見られる。特に中小企業は、ISOを経営強化の道具として活用できる可能性があるにもかかわらず、実現されていないところが多い。品質マネジメントシステムについても、来年度には共通の枠組みに沿って大幅な改定が予定されている。これからは、ビジネス活動を支援する道具として生かす絶好の機会がやってくるのではないかと考えている。

②余生の過ごし方

昨年末、お世話になった審査機関に審査を辞退する旨申し入れた。昨年は数多くの受審企業先を訪問した。北海道から九州まで移動を含めるとかなりの負担になっていた。考えてみると、過去3年間、コンサルティング、審査、そしてお店の事と多忙であった。幸いにして「ゆわん」を引き継いでくれる人が見つかった。これを機会に本来業務であるコンサルに回帰したいという思いが強くなった。退職してから12年間、仕事では多くのお客様にお世話になった。今までの経験から、ISOは中小企業やサービス業にとって有効な管理ツールになると確信している。改定期を迎えて、この内容を伝えるのが残された役割ではないかと思っている。年を経るにしたがって、記憶力は確実に低下するが、経験を踏まえた思考力や提案力を向上することは可能であろう。そう思って、気力と体力を保ち続けていきたい。

NHK番組「こころの時代〜宗教・人生」で聞いた「死は必然、偶然の生はありがたい」という言葉は、息子の死を経験して深く

心に沁みた。精神科医師：永尾雄二郎氏の話である。来年は自分も古希を迎える。「古希」とは、杜甫の詩で「酒債は尋常行く処に有り 人生七十古来稀なり」に由来するようである。当時は、70歳まで生きることが珍しかったらしい。そんなに齢を経た実感がわからないが、あと10年すれば、男性の平均寿命に達する。そして、20年後はまず生きていないだろう。そう考えると、生きている今が、有難い愛おしくも感じる。残された人生をできるだけ有意義に過ごしたい。それには、出会いを大切に、家族を大切に、元気な体をできるだけ保ち、意思をもって終末まで生きることではないだろうか。

【終わりに】

半生を振り返ってみると、「人間万事塞翁が馬」という諺があるが、幸福と不幸が交互にやってくることを身に染みて実感している。商船大学の経験は自分の人生にとって何を与えてくれたのだろうか？ 海や



船を通じての人生のロマン、負けじ魂、仲間意識、シーマンシップ…言い換えるならば「人格形成の場」ではなかったか。航海技術や船舶知識を直接役立たせる機会は少なかったが、社会に船出して「自立して生きる知恵」を育んでくれた。半生を振り返って、決して順調な人生ではなかったが、くじけず骨太な生き方が少しでもできたのは、学生時代の経験が少なからずあったと思う。

海原の中で船舶という大きな海洋構造物を世界に運ぶこと、それは単に操船技術だけでなく、語学・法律・経済学・気象学・心理学など総合的な知識を学び、大学を超え同世代の仲間と体を使い、心を通じあう乗船実習の場があった。社会で必要なのは知識だけではない、それを生かす知恵と努力、そして他者への思いやりである。東京・神戸の両大学とも統合や総合大学に組み入れられ「商船」という冠はなくなってしまったが、今後とも総合力と人間力を養うユニークな場であり続けて欲しい…と秘かに願っている。



海運経営に携わる人材の育成について

我々の時代は商船大学という単科大学として、大学では船舶職員としての知識・技術・素養の向上及び訓練等を目的とした技術者育成が主たる教科で、多くの卒業生は殆ど船舶職員として海運会社に入り、船員として船舶の運航に携わってきました。

しかしながら昨今はコンピューターの目覚ましい進歩や技術革新で、航海機器・計器・機関とも自動車を扱う如く簡素になり、船舶の運航には技術的には大学教育を必要としないレベル迄簡単になり、外国人船員の急激な雇用増大の結果、多くは陸上部門に配置換えされ、海務や工務関係の業務に従事し、雇用機会も著しく減少している現状です。

神戸大学との併合により総合大学になった機会に、船員教育に限らず、海運会社の経営にかかわる経営学をカリキュラムに入れ、他の総合大学に比し、より専門的海運知識を持った卒業生を海務・工務に限らず営業・経営部門に入れる事で活躍の場を広げ、就職の機会を増やし、最終的には海運経営者も輩出できるような教育が望まれます。

船舶は飛行機に次ぐ巨額の動産であり、国際競争に晒される償却期間の短い資産ゆえ、その経営には特別の知識・判断・能力が求められます。

船舶を建造・運航・売船するという一連の流れの中にも

① 船舶建造時

造船価格・運賃・用船料のマーケット調査、各国の海運税制調査、船籍検討、及び

資金調達・借入金利、償却、店費、運航費、管理費、採算性、売船迄の通算損益等を考慮した船舶建造計画立案、船価・船型・性能決定等

② 償却までの船舶運航

荷主との運賃交渉、用船者との用船料・期間交渉、船舶管理、船員配乗、運航費、税金等

③ 売船

売船価格動向調査、売船時期、買船者との交渉、売却税金等

N11期 竹橋 由進

上記のように専門知識が必要な多種多様な業務が有り、大学時代にその知識を取得する事は海運会社を目指す卒業生にとっては必要不可欠なものであり、それこそが海事科学部だけが成しえる人材育成だと確信いたします。

必要あれば外部から様々な講師（オーナー経営者、船舶管理会社、船員配乗会社、

銀行、用船・売船ブローカー、造船所、用船者等）を招けば、新たな繋がりも出来、就職の底辺が広がることも期待出来るのでは愚考致します。

海事科学部から将来海運界をリードしていける多数の人材が輩出されることを願ってやみません。

以上

Profile

竹橋 由進(Takehashi Yoshinobu) N11期 70歳

住所：〒251-0031 神奈川県藤沢市鵠沼藤が谷3-7-29
電話：0466-27-7086 FAX：0466-27-7086
携帯：080-5448-3711 メール：ytake@y4.dion.ne.jp

1966年 神戸商船大学 航海科卒業
1966年 ジャパンライン 入社
ニューヨーク定期・中南米定期 貨物船6隻乗船
VLCC5隻・鉱石船1隻 乗船履歴10年
大島商船高専派遣3年 海運経済 担当教官
定期船舶陸上勤務4年 北米航路コンテナ船運航業務
新造コンテナ船採算検討
油槽船舶陸上勤務 3年 VLCC-LPG運航業務
用船契約・チャーターリング等
1986年 配乗会社 オーシャンマリタイム 入社
離職日本人船員 配乗業務
1989年 船舶管理会社 ユニバーサルマリタイム 入社
営業・全日本海員組合対応・比国人配乗 常務
1994年 独立船主 くみあい船舶 入社
シンガポール子会社設立検討
1995年 シンガポール子会社 Kumiai Navigation設立 赴任 社長
大型LPG船・鉱石船・バナマックスタンカー等 8隻保有
シンガポール人社員採用・船舶建造・定期用船・売船等 従事
2006年 帰国 シンガポール子会社顧問
2008年 退職

ご案内と予告・ご案内と予告・ご案内と予告・ご案内と予告

平成27年度海神会理事会・総会・懇親会の日時、場所が決まりました。

日時：平成27年5月23日(土)

理事会会場：総合学術交流棟梅木Nホール、14:00～15:00

総会会場：総合学術交流棟梅木Yホール、15:00～16:30

議題：平成26年度収支決算、平成27年度予算、役員交代、活動報告など

懇親会：総合学術交流棟梅木ホール、16:30～18:00

尚、当日は深江祭と同時開催予定です。

参加申込先

同窓会総会及び懇親会に出席される方はFAX又はメールにてご連絡いただきますようお願い致します。

TEL/FAX：078(431)6439

E-MAIL:almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

平成27年度第10回ホームカミングデイは10月31日(土)です。

海神会評議会も左記と同会場にて当日13:00～14:00を予定しています。詳細は追ってお知らせします。どうぞ、ご参加ください。お待ちしております。

男子端艇部

海事科学部3年 主将：山内 脩

1. 大会遠征費
2. 19人
3. 第60回西日本新人カッター競技大会優勝
4. 全日本カッター競技大会で優勝を目指しています。
5. この度、晴れて神戸大学男子端艇部が第60回西日本新人カッター競技大会で優勝を成し遂げました。
次は全日本カッター競技大会で、良い結果をご報告出来るように慢心せず日々の練習に励みたいと思います。
海神会の皆さまにはこれからも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



オフショアセーリングクラブ

海事科学部2年 主将：重岡 諒真

1. 活動に使用するヨットの整備・遠征費用・大会出場費用
2. 65人(4年7人・3年10人・2年26人・1年22人)
3. 人数も多くヨットの定員の問題もあり、部員全員が毎日参加できるわけではありませんが、平均して週に4回(平日3回、休日1回)のペースで24フィートのヨット3艇を用いて練習しています。また月に1回のペースでレースへの参戦、クライナーベルクを使ったクルージングなどといった学外活動も行っています。
4. オフショアセーリングクラブは来年3月に行われる全日本学生ヨット選手権 ANIORU's CUPで優勝し、同年にフランスで行われる SYWOC(STUDENT YACHTING WORLD CUP)に出場し、世界を相手に戦うことを目標に日々練習に励んでいます。また部員一人一人のセーリング技術の向上も目標にしていきたいと考えています。
5. ご支援ありがとうございます。前回の全日本学生ヨット選手権では惜しくも準優勝という結果に終わってしまいましたが、今回こそは優勝をねらって精進したいと思いますので、ご支援のほどよろしくお願いします。



フォークソング部

海事科学部3年 主将：吉弘 憲

1. ライブ運営費の補助、機材費用等
2. 22人
3. 活動日：週1～週3回(金曜日休み)放課後中心で、後は組んだバンドにより個別練習あり。
4. 2014年は深江祭にてライブと模擬店の出店、有志の寮歌の伴奏、7月には、大阪工業大学からライブのお誘いがあり参加しました。12月には他大学4校と、2015年3月には他大学3校との合同ライブを行います。更に部員を増やし、活動を充実させ、実績を積み上げていきたいと思っています。また、かもめ会の掃除ボランティアでは、5名の部員が参加し、深江キャンパスの掃除を行いました。こうした学内のボランティア活動にも参加、協力活動ができ、団結力が強くなるきっかけとなりました。ぜひ、次回も参加したいと考えています。
5. この度は支援をして頂き、大変感謝しております。これからの活動のため、有用に使ってほしいと思いますので、今後よろしくお願い申し上げます。



女子端艇部

海事科学部 3 年 主将：加藤 菜里

1. 大会遠征費
2. 11 人
3. 年間を通して週 4 ～ 6 回活動し、主に新人戦・全日本大会に向けての練習に励んでおります。また、艇・オール管理・整備を行い、一般の方々への艇の貸出、市民レース運営の補助にも尽力しております。2016 年度の新人戦では支援してくださる方々の応援もあり、優勝することができました。
4. これからさらに部員を増やし、さらに強いチームを目指し努力していくことで、新人戦の優勝に続き、全日本大会でも優勝したいと考えています。
5. 日頃からのご支援、本当にありがとうございます。ご支援のおかげで、経済的心配をすることなく、日々の練習に励むことができております。これからも、是非とも女子端艇部のご支援のほどよろしくお願いいたします。



硬式野球部

海事科学部 2 年 主将：浅井 博敬

1. 大会費(年 2 回のリーグ戦費)
2. 12 人
3. 2014 年春季リーグ 0 勝 10 敗
2014 年秋季リーグ 1 勝 9 敗
4. リーグ戦で上位に入ります。
5. 海神会の皆様ご支援ありがとうございます。これからも海神会の皆様のご支援に答えられるようリーグ戦で上位に入れるよう努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。



茶華道同好会

海事科学部 4 年 主将：入江 絵莉衣

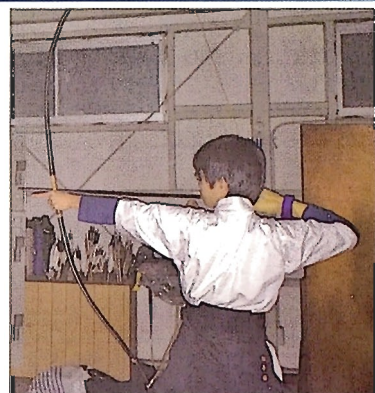
1. 共同使用の茶道具購入及び先生への御稽古代の一部
2. 5 名
3. 部員の過半数は毎年初心者ですが、先生のご指導のもと、月 2 ～ 3 回稽古をつけて頂き、皆で精進しております。今年は国際シンポジウムでの日本文化の発信として、お点前を行ったり、和室にてお茶会を開いたりとお稽古以外にも皆様に少しでも茶道の楽しさを広めていこうと幅広い活動を行ってきました。今後も日本文化の素晴らしさを理解しながら、この伝統を受け継いでゆきたいと思っております。
5. 毎年ご支援頂き本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



弓道同好会

海事科学部 4 年 主将：入江 絵莉衣

1. 的紙等の共同備品、除草用雑費等の道場整備品購入費
2. 5 名
3. 主に個人での活動が多いですが、自分と向き合い、精神力を高めるために各々稽古に励んでおります。今後はそれぞれ昇級昇段審査にて級、段の取得にも臨みたいと考えております。
5. ご支援本当に感謝しております。これからも支援金を活用させて頂き、稽古に励みたいと思っております。





第9回神戸大学ホームカミングデー

広報・社会交流推進委員会 佐俣 博章

2014年10月25日（土）、第9回神戸大学ホームカミングデーが開催されました。当日の午後には、深江キャンパスにて学部企画が実施され、卒業生、教職員、現役の学生を合わせ82名の方にご参加いただきました。準備にご協力いただいた海神会、教職員、学生自治会の皆様、ご参加いただきました皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。昨年度は、海事科学部創立10周年記念式典を盛大に行いましたので、通常の学部企画としては2年ぶりの実施となりました。その学部企画では、総合学術交流棟梅木Yホールにて、嶋田副研究科長による大学の現況報告、海事科学研究科修士1年生の岡山美有子さんによる研究発表、神戸商船大学機関学科26期生で、現和歌山共同火力株式会社常務取締役建設本部長の増田裕司氏による記念講演が行われました。以下に各講演の内容を紹介させていただきます。

大学の現況

嶋田副研究科長による「大学の現況報告」では、まず海事科学研究科の歴史が紹介されました。2003年10月の神戸商船大学と神戸大学の統合、2004年4月の国立大学法人化、2007年の大学院部局化、2013年の学部改組といった研究科の沿革に続き、現在の3学科5コース制における各学科の特徴が紹介されました。その後、学部卒業生の主な進路が報告され、海事科学部が就職に強い学部であることが強調されました。また、神戸大学が「研究大学強化促進事業」や「国立大学の機能強化（補助金タイプ）」へ採択されていること、大学のガバナンス改革が行われたことが報告されました。さらに、海洋基本計画と関連させた今後の研究指針、歴代の門柱を利用したモニュメントの設置計画、練習船深江丸の教育関連共同利用拠点化などの説明がなされました。

在学生による研究発表

続いて、海洋ロジスティクス科学講座の大澤輝夫准教授の指導学生で、海事科学研究科海事科学専攻修士1年生の岡山美有子さんによる「洋上風力発電量調査のためのドイツでの共同研究」と題した研究発表が行われました。

この講演では、まず初めに、設置コストの低さと安定性という風力発電の特徴と、海洋国日本における今後の洋上風力発電の重要性が述べられました。海の上に風車を建てる洋上風力発電の実用化のためには、海上風況を精度よく推定するための技術の確立が必要であり、その方法について言及した後、陸地から数十～百kmの沿岸域においては、高い空間解像度を持つメソ気象モデルによる数値シミュレーション風況予測の精度向上が必要であることが述べられました。この数値モデルの精度向上のためには、陸上地形の再現性の高さ、正確な海面温度データセットの入力、モデル内の同化方法などさまざまな要因があり、中でも海上風が大きく影響を受ける海面温度データセットが重要で、4種類の海面温度データセットの比較という岡山さんの卒業論文の内容が紹介されました。

現在、日本の洋上風力発電施設としては、試験的に導入されているものが数ヶ所あるだけですが、2011年の福島原子力発電所の事故をきっかけに原子力発電の撤廃を決めたドイツでは、国をあげて再生可能エネルギーの導入を推進しているとのことでした。そこで、オルデンブルク大学風力エネルギー研究センターエネルギー部門との国際共同研究「日本・欧州風況マップ精度比較」の共同研究者として、日本沿岸の高精度な洋上風況マップの作成と、今年新しく北海に建設された洋上風力発電施設の見学のために、2014年8月24日から3週間、オルデンブルクに滞在した際の様子が紹介されました。このときの研究成果として、海上風速はドイツより日本のほうが小さいこと、日本は沿岸からの風速勾配が大きいことなど、日本とドイツの沿岸風速の違いが説明されました。また、日本沿岸において季節を代表した月の平均風速を比較して、冬場は大きく、春と夏は小さくなる季節依存性が示されました。年間平均風速を考慮すると、今回作成された風況マップから、伊豆半島沖と紀伊半島沖が日本沿岸の洋上風力発電所の適地とのことでした。さらに、北海上の洋上風力発電施設「洋上ウィンドファーム」の見学の様子が写真で紹介されました。この風力発電施設は80基の風車が並ぶもので、約36万世帯分の電力に相当することでした。

最後に、今後、より高精度な風況マップを作成するという研究計画が示されるとともに、今回のドイツ出張が梅木信子奨学金によ

るものである旨の謝辞が述べられました。発表終了後には、4名の聴講者から熱心な質問がありました。

記念講演

3件目は、和歌山共同火力株式会社の常務取締役建設本部長の増田裕司様による記念講演「電気事業における火力発電の役割」でした。増田様は、神戸商船大学機関学科26期生で、1981年4月に関西電力株式会社に入社され、その後主に火力発電所の建設業務をご担当されてきました。

この講演では、初めに、一次エネルギーに占める電力比率の変遷、水力・火力・原子力などの電源別発電電力量の変遷、電力の化石燃料への依存度及び石油・石炭・LNGなどの燃種別電力量の推移といった火力発電に関する変遷が紹介されました。その上で、火力発電の開発における、大容量化及び高温・高圧化による高効率化への取り組みが述べられました。また、高度経済成長期に顕在化した公害問題に関連して、排煙脱硫装置・排煙脱硝装置などの環境設備の例示を伴った、SOx・NOxの排出低減といったこれまでの取り組みも紹介されました。その中で、各国における火力発電の環境負荷の比較が行われ、日本の技術力の高さが示されました。

次に、電力供給における火力発電の役割として、季節間・週間・一日の時間による需要変動と再生可能エネルギーの出力変動への対応の必要性が述べられました。その上で、短期・長期の需給不一致の解消法について、「瞬時変動に対応するガバナ・フリー運転」と「給電所による発電出力の制御」といった2つの対応法が説明されました。今後は、火力の調整機能がこれまで以上に重要になってくるとのことでした。また、石油・石炭・LNGなどの燃料の特徴と運用方法についての紹介では、各燃料について、資源量、調達先の幅と柔軟性、価格の変動、環境負荷の面から考察がなされました。石炭は調達の柔軟性は高いが環境負荷が大きい、LNGは石炭に次いで安価だが調達先の柔軟性が低い、石油は高価だが調達の柔軟性と貯蔵性が高いという特徴が示されました。

さらに、東日本大震災以降の発電電力量の実績と電気料金の改訂についての状況が説明されました。長期停止機の再稼働や定期点検の延期による稼働率の向上など、電力供給力向上のための対策が示されました。その中で、設備トラブルの早期発見と早期復旧による稼働日数増加のための取り組みが紹介されました。また、石油・石炭・LNGにおける共通した調達費低減のための取り組みとして、調達先の分散による安定性の確保、それに伴う価格交渉力の強化が重要であることが述べられました。その上で、LNGでの新規プロジェクトへの参加や輸送方法の多様化、米国産石炭の利用、共同調達などによる調達価格低減のための取り組みが紹介されました。

最後に、火力発電技術の今後の展望について、3つの発電方式を比較した上で、各方式における高効率化の方法が紹介されました。特に、今後は再生可能エネルギーの導入拡大が予想されるため、需給バランスを保つために需要変動に対する速やかな供給対応力の向上が必要である旨の説明がされました。発表終了後には、3名の聴講者から質問がされました。再生可能エネルギーがこれまで以上に普及してきた際の火力発電所の対応方法に関する質問においては、発電出力変化速度の向上や起動時間の短縮等に加えて、再生可能エネルギーの発電量の予測精度を上げていく必要がある旨のコメントがなされました。また、原子力発電所が停止している現在、関西電力では他の電力会社からの電力供給が必要であることや、関西と関東のサイクル統一に関する質問に対するコメントがなされました。

以上3件の講演に先立ち、13時から14時には海神会の評議会が行われました。また、同時刻に、深江丸、静電タンDEM加速器、海事博物館を対象としたキャンパスツアーが行われました。講演会終了後には、梅木ホールに場所を移して懇親会が開催され、多くの方にご参加いただき大変盛況となりました。会の最後は、参加者全員で円陣を組み、古くから歌い継がれている寮歌「白波寄する・・・」の大合唱になり、卒業生と現役教職員・学生の交流を図るホームカミングデーに相応しい場となりました。来年もホームカミングデーへのご参加を心よりお待ちしております。

会計報告



平成26年度 第11回総会式次第

開催日時:平成26年5月23日(土) 15:00~16:30

開催場所:学内総合学術棟 1F 梅木Yホール

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選出
5. 議 案

第1号議案:平成25年度事業報告、収支決算及び
監査報告について

第2号議案:平成26年度事業計画及び収支予算案につ
いて

第3号議案:役員(会長、理事、監事)の選任について

6. 林祐司海事科学研究科長より海事科学部の現状と
今後の抱負について

7. 各支部の活動報告

8. 事務局報告

9. 閉 会

平成25年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成25年4月1日から平成26年3月31日迄)

科 目	25年度決算額	25年度予算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	5,625,000	6,480,000		
2.雑収入	525	500		
当期収入合計(A)	5,625,525	6,480,500	△ 854,975	
II.支出の部				
1.事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	948,766	1,315,000	366,234	
HP維持、クラブと学部支援	1,350,097	1,455,000	104,903	8,18,28期生
関係団体、支部、部活経費等	1,305,053	1,445,000	139,947	
小計(a)	3,603,916	4,215,000	611,084	
2.管理費				
人件費、会議、交通費等	1,681,562	1,485,000	△ 196,562	事務員年末に交代あり
印刷費、通信費、消耗品等	61,840	100,000	38,160	
事務費、光熱費、雑費等	630,857	470,000	△ 160,857	
小計(b)	0	2,055,000	△ 319,259	
3.予備費(c)	77,510	210,500	210,500	
当期支出合計(B=a+b+c)	5,978,175	6,480,500	502,325	
次期繰越収支差額(C=A-B)	△ 352,650	0		
当期剰余金処分案	平成25年度			
平成23年度前期繰越金	4,196,104			※収支決算書並びに予算書に於いて 疑問点がありましたら 事務局までお問い合わせください
当期繰越金	△ 352,650			
次期繰越金	3,843,454			

平成25年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成25年4月1日から平成26年3月31日迄)

科 目	25年度決算額	25年度予算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息	100,807	100,000	807	定期預金利子
小 計	100,807	100,000	807	
前年度繰越収支差額	30,233,434	30,233,434	0	
合計(A)	30,435,048	30,433,434	1,614	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	1,525,002	1,525,002	0	
送金手数料	735			
収支合計(B)	1,525,737	1,525,002	735	
次期繰越収支差額(A-B)	28,909,311	28,908,432		
預かり金処分内訳	平成25年度			
預かり金繰越合計	1,525,002			特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと旧神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである。 (注1) ¥ 28,000,000円は基金として置くものである。 (注2) 預かり金は旧神戸商船大学学生自治会の処分財産として大学から海神会に移され預かり管理してきた。 海事科学部からの要請に基づき、海事科学部学生の自治、厚生関係への使途目的とし、この預かり時の金額を上限として当期支出が決定され返還した。 旧神戸商船大学学生自治会の預かり金処分は、今回で完了した。
当期支出合計	1,525,002			
次期繰越金	0			

平成26年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成26年4月1日から平成27年3月31日迄)

科 目	26年度予算額	25年度決算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	6,110,000	5,625,000		
2.雑収入	500	525		
当期収入合計(A)	6,110,500	5,625,525	484,975	
II.支出の部				
1.事業費				
総会、会誌発行、送料等	1,315,000	948,766	366,234	
HP維持、クラブと学部支援等	1,455,000	1,350,097	104,903	8,18,28期生
関係団体、支部、部活経費等	1,445,000	1,305,053	139,947	
小計(a)	4,215,000	3,603,916	611,084	
2.管理費				
人件費、会議、交通費等	1,485,000	1,681,562	△ 196,562	事務員年末に交代あり
印刷費、通信費、消耗品等	100,000	61,840	38,160	
事務費、光熱費、雑費等	470,000	630,857	△ 160,857	
小計(b)	2,055,000	2,374,259	△ 319,259	
3.予備費(c)	210,500	0	210,500	
当期支出予算総額(B=a+b+c)	6,480,500	5,978,175	502,325	
次期繰越収支差額(A-B)	△ 370,000	△ 352,650	△ 17,350	

平成26年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成26年4月1日から平成27年3月31日迄)

科 目	26年度予算額	25年度決算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息	101,000	100,807	193	定期預金利子のみ
小 計	101,000	100,807		
前年度繰越収支差額	28,808,504	30,233,434		
合計(A)	28,909,504	30,334,241	△ 1,424,737	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	0	1,525,002	△ 1,525,002	
送金手数料	0	735	0	
合計(B)	0	1,525,737	△ 1,525,737	
次期繰越収支差額(A-B)	28,909,504	28,808,504	101,000	

特別会計は、「海神会」の基金として管理するものである。

(注1) ¥ 28,000,000円は、神戸大学海事科学部同窓会「海神会」の基金として置くものである。

(注2) 旧神戸商船大学学生自治会の預かり金処分は、平成25年度で完了した。

クラス会



神戸商船大学第9期生機関学科卒業50周年クラス会(九十九会)記念旅行

E9期 関 信三郎

卒業50周年を記念して、平成26年11月1日～3日に有志 級友22名+奥様3名計25名で(2泊3日)観光「立山黒部アルペンルート&黒部峡谷トロッコ電車」の旅に挑戦して来ました。

今回の旅行は、幹事 岡本興也君の綿密な計画と調査による詳細な情報により、級友の夫々が東京・名古屋・大阪駅から松本駅に集い、貸切りバスで大王ワサビ農場を見学した後に、先ずは大町温泉・立山プリンスホテルに宿泊しました。ホテルの露天風呂で寛いだ後は宴会となり、物故者への献杯の後に、食事と同時に旧交を温める為のお酒が始まりました。



2次会では、酔いで気分はすっかり学生時代に帰って、級友の「白髪と禿げ頭」が気に為ると、墨で髪を手書き追加する様な「いたずら者」が出る始末で、皆が嬉々として語り合い、絆を確認しました。

翌朝、トロッコバスで黒部ダム駅に到着、黒四ダム展望台の登り降りの階段や堰堤492mの徒歩は後期高齢者(前後にある)者にとっては少し辛いものでしたが、そこで見渡す景色は「裕次郎の黒部の太陽」を思い起こす壮大なものでした。黒部湖の紅葉は色付き初め、黒部平は色付き半ばでしたが、大観峰の景色は丁度見ごろのそれは絵になる、紅葉が一面にあり、期待以上の眺めを満喫出来ました。

次に訪れた室堂は、我々の行いの良さと(噂では幹事が御百度踏んで祈願した甲斐が有り)天候にも恵まれ山腹の紅葉や立山の頂きの残雪の彩りは経験豊かな添乗員さんをも驚かす程の素

晴らしい眺めでとても感動しました。

この室堂の雲上高原の散策では、ミクリガ池を挟んだ対岸の景色が新たな感激でしたが、風と共に、高所の為の急激な気温の低下で、幹事さんの情報に従って持参したダウンジャケットや手袋やトレッキングシューズがとても役に立ちました。

その後、バスで天狗平・弥陀ヶ原・美女平を眺めながら下山し宇奈月温泉に到着、ホテル桃源で2回目の露天風呂と宴会場での食事及び歓談をしました。最後は、やはり皆で肩を組んで、寮歌「白波寄する東明の、」を歌い、お開きになりました。

3日目は宇奈月駅から「黒部峡谷鉄道(トロッコ列車)」に乗り樺平駅まで遊覧の旅、終点の樺平では、河原展望台・奥鐘橋・人喰い岩・河原展望台等を夫々散策しました。トロッコ列車では、小雨でベンチが濡れていて、持参したビニール合羽が役に立ちました。尚、トロッコ列車に乗る前に級友記念の集合写真を撮りました。帰途は、宇奈月麦酒館で昼食を取り、JR富山駅で東京組と別れ、大阪駅で解散し、大満足で変わらぬ友情と絆を確認した楽しい旅行が終わりました。

尚、上記の旅行に際し、海神会から多額のご支援を頂きました。厚くお礼申し上げます。



神戸商船大学航海学科9期生卒業五十周年記念クラス会

N9期 山崎 祐介

昨今の男性の健康寿命は約70歳と言われている。航海学科九期生は、とうにそれを超えているが、比較的元気だ。連続して上陸した大型台風18号、19号の合間を縫って、平成26年10月7日、8日南淡路ロイヤルホテルで行われたクラス会に50年過去へのタイムスリップを楽しみに30名(一組12名、二組18名)が参集



した。新神戸駅に各地から集合し、仲間が運転する車に分乗して、淡路島に渡った。途中、「あわじ花さじき」で休憩し、明石海峡を眺めホテルに向かった。九州からの3名は車で直行してホテルに駆けつけた。写真1は、その際の記念集合写真である。ホテルでは、まずは物故者13名への黙祷、そして潮流で身の締まった美味な鯛料理を食べながら、懇親会を思う存分楽しんだ。写真2に見るように、少し時間がたつと50年前の兄弟のようになる。これが全寮制の威力の一つだ。翌日の午前中は、大潮時の鳴門観潮に出かけた。日本一の渦潮を見て、「よく50年間頑張ってきたもんだな」、「これからまだまだだよ」という声も聞かれた。午後は、大鳴門橋を渡四国の玄関鳴門市の大塚国際美術館を訪れ、美術鑑賞を堪能した。そこでクラス会を解散し、ゴルフ組、観光組、または帰宅組に分かれていった。まさに50年前へのタイムスリップであった。このように自分たちで楽しんだことを言うだけの海神会だよりでは不十分だろう。

懇親会において、各人が「50年間頑張ってきたが、この先何が待っているだろうか、近況はこうで、今の心境や思いはこうだよ」と述べる場面があった。そのなかで、後輩諸氏にひょっとして役に立つかもしれないという内容で記憶に残っているものだけを参考までに紹介しよう。

「男は、審判(自分を評価する人)がいないところで、どれだけ頑張ることができるかではないだろうか。ひと(他人)が見ていない時こそ、全力を尽くさなければならない。」「挫折を恐れず挑戦せよ。失敗してもダウンするな。失敗が当たり前だ。立ち上がれ。こういう経験を持った人だけが真の大物なんだよ。」「周りの人が笑ってしまうほど、ひと(他人)がやらないことにのめり込んでみる。」「迷ったこともあったが、楽な道ではなく、厳しい道を選んで正解だったね。」「人生の岐路で一度決断したら迷わず突き進め、後悔しないように!」「論語の恭寛信敏恵だが、超簡単に言うと、丁寧・寛大・信用・機敏・思いやりが大切だということだ。」「ときには20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。このようにサムエル・

ウルマンは言ったね。」

最後になったが、「森川 修君(写真下の左端)という名幹事長が居たからこそ、このクラス会が出来た」という拍手が皆から湧き起こったことを付け加える。なお、海神会からの多大なご寄付を戴き有効に使わせて頂きました。紙面を借りて感謝の意を表します。



神戸商船大学19期生卒業40周年記念同窓会

2014年10月25日(土)に19期生40周年記念同窓会がN・E合同にて賑やかに開催されました。N・E合同の同窓会は約15年振りとなります。今回は場所を母校の所在地神戸とし、イベントは神戸港記念クルーズ(遊覧船ファンタジー号)に始まりハーバーランドオリエンタルホテルでの主会食、神戸夜景を楽しむ二次会さらに翌日のゴルフコンペと言うメニュー盛りだくさんの中、御夫人方の出席も頂き総勢60名の参加となりました。

主会場では、昭和45年入学当時のクラス写真、卒業アルバム、平成7年進徳丸震災解体の新聞記事などを提供し、「白菊の歌」、「神戸商船大学寮歌」を熱唱してあの素晴らしい青春時代をそれぞれの思い出のなかに浸ることができました。神戸港記念クルーズでは、世話役が用意した寮歌CDをBGMに、現在の神戸港遊覧とともにあの頃には無かった六甲アイランド沖から深江のボンド付近を廻り海から母校を懐かしみました。

卒業以来40年の月日が過ぎ、お互い風貌も少しは変わってはいるものの、すぐさまあの懐かしい深江時代にタイムスリップし、和気あいあいの歓談に花が咲きあつと言う間の一日でした。最後には、N・E代表者による「自己紹介」が行われ、しっかりと締めくくることができました。皆口々に、10年後にはまた元気で集まろうとの声が別れの挨拶となりました。

本同窓会開催発起は昨年暮れの東京地区と関西地区の個別同窓会での話題からでした。だれしも40周年記念には是非ともN・E合同で行いたいという思いから、幹事会を作り、世話役を決め、名簿を作ると作業を分担して取り組みました。今回の記念同窓会開催はこの作業故のことではありましたが、各世話役の踏ん張りはこれからの我が19期生の交遊にきっと有益なものとなる

N,E19期 世話役一同

ことでしょう。ご苦労さまでした。

また本同窓会開催に当たっては海神会からのご支援を頂くことができましたこと、お礼申し上げます。

世話役

N

甲斐久夫、門脇基洋、鶴谷雄一、中村哲朗、前田正文、三輪忠幸、山下滋生

E

岡田三正、清水正次郎、中嶋孝雄、山本和則

(順不同)



神戸商船大学卒業30周年記念同窓会の報告

1. 卒業30周年記念同窓会

海神会の支援を得て、神戸商船大学航海学科29期・機関学科29期・原子動力学科9期・輸送科学科2期・海洋機械管理学科1期入学生卒の卒業30周年記念同窓会を、平成26年7月19日(土)午後4時から6時まで、深江キャンパス総合学術交流棟1階梅木ホールで開催しました。航海学科27名、機関学科18名、原子動力学科14名、輸送科学科1名、海洋機械管理学科1名、計61名の参加でした。会場の梅木ホールは、クーラーの電源が入らなかったのが原因かもしれませんが、「オッサン」の風貌に代わった皆様のエネルギーで、熱気に包まれました。

現役女子学生の司会の下、原子動力学科9期生のクラス担任をされておられた恩師の矢野淑郎名誉教授のご発声で乾杯し、なつかしい面々の顔を見、声を聞きながらの楽しい同窓会懇親会が始まりました。矢野先生は、30周年同窓会を浦島太郎の物語になぞられ、「玉手箱を開けた直後のような印象です」と表現され、ご指導いただいた「我が師の恩」を思い、流れた月日の厚さと重

幹事 N29期 斎藤勝彦、E29期 藤田浩嗣
E29期 三村治夫、A9期 武田 実



みを感じました。懇親会の途中から、35年前の水泳訓練の秘蔵映像を見ながら、体操・遠泳・食事・昼寝・巡検など懐かしい体験を思い出し、学生時代にタイムスリップしたようでした。集合写真は、酔いが回った頃の懇親会半ばに撮ったもので、皆様血色よく見えました。最後に、寮歌「しらなみ寄する」を全員で合唱し、お開きとなりました。

同窓会終了後も、「良かった」、「なつかしかった」、「またやろう」といったメールが飛び交っていました。「容貌は互いに変われども、その人となりは基本的には変わらず思い出に浸る事ができました」というコメントが、全員の気持ちをうまく言いあらわしていると思います。(E29053 三村治夫)

2. 同窓会二次会

機関学科、原子動力学科、海洋機械管理学科の卒業生は「さつまふじ深江店」にて、機関学科17名、原子動力学科13名、海洋機械管理学科1名、計31名がつどい、にぎやかな会となりました。午後6時から約2時間の予約をしていたのですが、午後6時を過ぎたころからぼつぼつ集まり始め、それでも半数程度でしたので気を揉みました。午後6時20分頃にはほぼ全員が集合したのですが、話を聞いてみると、白鷗寮を見に行っていたとのこと。現在の白鷗寮は他学部生にも開放され、海事科学部の寮生は、他学部生と相部屋です。プールの跡地にできた東寮は、留学生との混住寮で、上階は女子寮になっています。各部屋はベッドと机のある個室4室とバス・トイレ・キッチンが共通スペースとなった

ユニットタイプです。せっかく見学に行ったのに、残念ながら部屋の中は見ることができなかったそうです。二次会が始まって気が付いてみると、焼酎の一升瓶4本が並び、店の若いお姉さんとツーショット写真を撮るなど大いに盛り上っていました。予約時間を越えた午後9時前に解散となりました。

また、航海学科と輸送科学科の卒業生は「養老乃瀧」で18名が集い、午後9時ごろ散会、仲良し数名で懐かしい店へ繰り出した同期生もいた模様です。(A9023 武田 実)

3. オプショナルゴルフコンペ

同窓会の翌日、関西クラシックゴルフクラブにて、オプショナルゴルフコンペを行いました。参加者は、航海学科19名、機関学科4名、原子動力学科1名の計24名でした。当日、幹事には3つの心配事がありました。前日の同窓会で飲みすぎて寝坊するヤツがいないか？ 2日酔いでラウンド中熱中症等により体調不良者が出ないか？ 梅雨明け間際の雷雨でプレーが中断しないか？ いずれも幹事の杞憂に終わったことは、参加者各位の日ごろの行いの良さがでたおかげだと思っています。ちなみに成績は機関学科の松居君が見事優勝、同時に83のベストグロスでした。最近では航海学科を中心に、関東と関西でそれぞれ半年に1回のペースでコンペをしています。今回は初めての東西対抗戦でもありました。「今度は関東で東西対抗コンペをしたい」との希望が多く聞こえました。(N29022 斎藤勝彦)



海神会同窓会事務局の案内

会員の皆様からのご連絡をE-MAIL またはFAX.で受付けております。

住所や連絡先の変更、また本会に対するご要望、ご意見、ご質問などをお待ちしております。なお、ご連絡の際には、所属学科、入学年または卒業年も併せてお伝えいただけますようお願いいたします。

- ・TEL/FAX: 078-431-6439
- ・E-MAIL: almamata@maritime.kobe-u.ac.jp
- ・ホームページ: <https://www.fukae.org/>

深江キャンパス内施設のご案内

1. 海事博物館: <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/study/museum.html>
開館日: 月・水・金
開館時間: 13:30 ~ 16:00 訪問される時は事前にご確認下さい。
TEL: 078-431-6239
2. 神戸大学附属図書館海事科学部分館: <http://lib.kobe-u.ac.jp/www/>
開館日: 平日、土曜日(但し、毎月第一水曜日は、休館です。)
開館時間: 平日: 08:45 ~ 20:00、土: 10:00 ~ 18:00



海事科学部同窓会海神会への寄付者一覧 NO.1(2014年2月～2014年4月)

43名の方々から1,030,000円のご寄付を頂きました。皆さまのご支援を心よりお礼申し上げます。

納入年月日	氏 名	卒業学科・期	金額 (千円)	備考
2014年2月	加藤 智弘	高等商船N43期	30	
2014年2月	阪田 利典	高等商船E44期	10	
2014年2月	岡安 博	高等商船E45期	5	
2014年3月	保科 次郎	高等商船N45期	10	
2014年2月	青木 輝展	E1期	5	
2014年3月	浅井 伸行	E24期	30	
2014年2月	岩田 泰臣	N11期	5	
2014年3月	岩田孝登茂	N3期	30	
2014年2月	上野 行雄	N4期	30	
2014年3月	尾野 勝彦	N13期	30	
2014年3月	尾形 民雄	N29期	5	
2014年2月	加藤 啓二	N1期	30	
2014年2月	片岡 徹	N18期	30	
2014年2月	川口 正裕	N10期	30	
2014年3月	神崎 昭広	E9期	100	
2014年4月	木梨 哲司	E13期	30	
2014年2月	小林 英明	N13期	30	
2014年2月	匿名	E14期	30	岡山某 匿名希望
2014年2月	小高 公一	N13期	30	
2014年3月	小久江 尚	N34期	5	
2014年3月	笹田 勲	E11期	10	
2014年3月	坂部 好彦	E25期	30	
2014年3月	城 佑樹	海事技術マネジメント2014年卒	30	
2014年2月	澄川 啓三	N3期	5	
2014年2月	高野 哲也	E3期	10	
2014年2月	寺田 栄一	E12期	30	
2014年2月	徳永 博司	E5期	30	
2014年4月	中村 道夫	E20期	30	
2014年3月	中村 達也	A4期	10	
2014年4月	西原 裕人	N9期	30	
2014年2月	古川 清	N17期	30	
2014年3月	文田 邦治	E16期	10	
2014年3月	藤本 静夫	N15期	30	
2014年4月	堀家 勝	N20期	30	
2014年4月	増田 徹	E19期	30	
2014年2月	宮森 勝	N6期	30	
2014年2月	三井 明	N6期	30	
2014年4月	村田 正一	22期	30	
2014年2月	森本 靖之	N7期	10	
2014年3月	湯浅 章二	E13期	10	
2014年2月	吉川 渉	N5期	10	
2014年2月	吉澤 慎三	N4期	30	
2014年2月	和氣 博嗣	N12期	30	
[敬称略:五十音順]		合計	1,030	43名

海事科学部同窓会海神会への寄付者一覧 NO.2(2014年5月～2015年1月)

17名の方々から201,000円のご寄付を頂きました。皆さまのご支援を心よりお礼申し上げます。

納入年月	氏 名	卒業学科・期	金額 (千円)	備考
2014年11月	荒井 清明	A02期	10	
2014年6月	牛島 龍彌	N13期	10	
2014年6月	金澤 龍夫	N13期	30	
2015年1月	神吉 行彦	E13期	5	
2014年7月	国枝 佳明	N27期	30	
2015年1月	久保 雅義	N13期	10	
2014年10月	坂本 吉紀	高等商船N29期	10	故人のご子息より
2014年10月	関 信三郎	E9期	5	
2014年4月	成川 寛容	海事科学部卒	30	
2014年5月	藤井 洸	N15期	5	
2014年9月	藤原 義和	E17期	3	
2014年8月	前野 史朗	海事科学部卒	30	
2014年9月	三隅田良吉	高等商船N44期	3	
2014年12月	光長 央人	N33期	5	
2014年9月	村井 五郎	N13期	5	
2014年5月	山川 欣男	N12期	5	
2014年5月	矢野 巖	N26期	5	
[敬称略:五十音順]		合計	201	17名



かもめ会活動報告

学生・OBとの合同清掃活動

去る11月16日(日)学生59名(代表杉山君)と「かもめ会清掃グループ」6名が共同でキャンパス清掃を実施しました。今回で4年目となる恒例行事です。自主参加した学生59名：その内訳は男子端艇部11名、女子端艇部7名、Offshore Sailing 24名、硬式野球部11名、海事軽音楽部4名、弓道・茶道部2名の後輩達です。

合同清掃活動の発端は4年前に遡ります。深江キャンパスを拠点にしている部活に対し海神会が経済支援を続けており、それに対して学生達も少しでも報いたいとの気持ちから、何か役立つことをしたいと矢野船長に相談があったそうです。

それなら「かもめ会」のキャンパス清掃を手伝っては?と学生に示唆されたのが発端のようです。

「かもめ会清掃グループ」は2006年より自主的にボランティア活動を立ち上げ、今年で8年目となります。現在のメンバーはOB 5名、その家族1名、そして旧職員3名の9名です。

普段の活動は月2回43号線沿い通路の掃除と垣根の剪定を行なっておりますが、今回は参加者も多数で、キャンパス内の総ての通路と、卒業記念植樹広場、グラウンド周辺などに清掃区域を細かく編成し、2時間半の活動時間で細かく清掃しました。(落葉、ビニール袋、ペットボトル、飲料缶、たばこ吸い殻等を収集)収集した塵量はリヤカー4台にごみ袋が満載状態となりました。

作業終了後は、大学会館に参加者全員が集合し、ティーパーティー形式の懇親会を開きました。参加学生も昨年より更に増え年中



かもめ会 E1期 三浦 敏夫

行事の一つとして認知されるようになりました。毎回参加の学生も多く、懇親会ではOBの学生時代の話や、クラブ活動の話、将来の進路など気あいあいと世代を超えた交流が行われました。

昨年は小田前学部長と梅木信子先生が特別参加され、養正館敷地の草刈りと打ち上げ会にも加わるサプライズがあり、梅木信子奨学金や梅木ホール由来など在校生の理解も深まりました。

今回の懇親会で、清掃ボランティアの目的を後に続く学生達への期待と想い入れも込めて、多少なりとも伝えられたかと思っています。



我々OBボランティアかもめ会は、これからも継続して学生への教育環境、キャンパス環境の改善に協力したいと思っております。同窓生諸氏には、この活動の目的を知ってもらい、気軽に参加して欲しいと願っております。

通常活動日は毎月第一、第三日曜日13時より3時間程度の作業です。真夏の猛暑期と冬の厳寒期は活動を中止しています。尚、この活動は大学施設課と連携協力の下に行われております。

この清掃ボランティア活動に参加される同窓生を募っておりますので、下記連絡先にお問合せ下さい。

[連絡先] N-17 滝本純治氏 TEL : 0799-90-1681
E-mail : jktakimoto@yahoo.co.jp



外国航路よもやまばなし 第5回目

8、ブラジルから日本帰港まで

5月11日ニューオリンズを出港し、程なく河口を出て、メキシコ湾、カリブ海をへて、ブラジルの東端ナタール沖、リオデジャネイロ沖、サントス沖を通り、5月28日朝、リオグランデに着き、続いてラゴア、ドス、バトスという大きな湖に入り、約12時間走ってポルト、アレグレに着いた。この港に日本船がきたのは、25年ぶりのこととて新聞テレビにも大体的に報道され、現地の日本領事館員、その家族、在留邦人など多数来船し、大変な賑わいであり、夜はスキヤキパーティを開きなかなか好評であった。ある日のこと、訪船した日本人たちがいつまでも帰ろうとしないので、その理由を聞いてみたら、本日夕方、この船で日本品の安売りがあるから、それまで待っているとのこと、船側では驚いて、そんなことはない旨よく説明して、漸く帰ってもらった。領事館員にこの話をしたところ、ブラジルの田舎では、情報に乏しく、すぐそのようなデマが飛ぶ、とのことであった。この国ではポルトガル語が公用語で、英語は余程のところでないとい通用しないが、乗組たちは、世界を巡っているの、タクシーをつかまえて、セントロといえは街の中心街に連れて行っ

神戸高等商船航海科43期生 村田 惇雄



てくれ、あとはアクション、スピーキング(手真似、や身振り)でなんとか用を足し、帰りは船名と岸壁の名前を言えば、帰船できる由。男なればこそ、こんなことを気軽にやっつてのけられるが、女の旅行者などでは、そうもゆくまい。つぎの最終積地りオグランデは、人里はなれたところで、特筆すべきこともなく、只、仕事に専心した。6月18日積荷も終わり小倉むけ出港、途中ケープタウンで補油ののち、インド洋、マラッカ海峡をへて、南シナ海入り漸くホットした気分になり7月23日小倉に入港した。これで昭和48年4月2日名古屋出港以来アメリカ〜ブラジルをへて東回りに世界を一周したわけである。乗組が言うのには、この船長と一緒に乗っていたらどこに連れていかれるかわからん。しかし、苦しいながらも楽しいこともあり、よい思い出となると。男船乗りカモメ鳥。

まあ、それも良いではないか。

第13号につづく